

## ●公会堂のデザインの特徴は？

公会堂の建物はネオゴシック様式といわれています。ネオはもとギリシャ語で「新しい」という意味です。ゴシック様式は12世紀から15世紀のヨーロッパで見られた様式ですが、18世紀後半から19世紀にかけてこの様式の復興がありました。特徴は高い塔や垂直線を強調したデザインです。イギリスの国会議事堂も同じ様式です。

また1910年代から1930年代にかけてヨーロッパやアメリカで機能や実用性を重視した幾何学的、直線的なデザインが流行しました。このようなデザインは「アール・デコ」と呼ばれました。「アール・デコ」という言葉は、パリで1925年に開催された「現代装飾美術・産業美術国際博覧会」の略称、アール・デコ博にちなんで呼ばれた名称です。

公会堂の玄関や会議室の装飾には、このアール・デコスタイルが取り入れられています。



イギリス国会議事堂

探してみよう

公会堂の壁面にはテラコッタと呼ばれる装飾があります。どこにあるか探してみね。



公会堂を1周すると、25か所にありますよ。

## ●どうして原敬の胸像があるの？

政府の要職は、明治から大正になっても明治維新を推進した薩摩藩、長州藩、土佐藩、肥前藩出身の有力者によって占められていました。そのような状況の中で原敬は現在につながる政党による政治の基礎をつくり、政党内閣を実現しました。



原敬は盛岡の出身で、新聞記者から外務省に入り、その後、大臣や衆議院議員を経て大正7年(1918年)に総理大臣に就任しましたが、大正10年(1921年)11月東京駅で暗殺されました。

公会堂の庭園内に立つ原敬の胸像は、原敬の没後30年を記念して、昭和26年(1951年)11月に岩手民主政治普及会、岩手県議会、盛岡市などによって設置されたものです。

### <<佐藤功一教授が設計した主な建物>>

早稲田大学大隈記念講堂(1927年) 重要文化財

鶴舞公園普通選挙記念壇(1928年)

武蔵高等学校講堂(1928年)

群馬県庁舎(1928年)

日比谷公会堂・市政会館(1929年)

米子市庁舎(1930年)

群馬会館(1930年)

津田塾大学(1932年)

神田神社(1934年) 大江新太郎と共に設計

栃木県庁舎(1938年) 部分保存

滋賀県庁舎(1939年)

日本赤十字社広島支部病院(1939年)

被爆建物として一部保存



早稲田大学大隈記念講堂



群馬県庁舎



日比谷公会堂

# もっと 公会堂を知ろう



## 岩手県公会堂

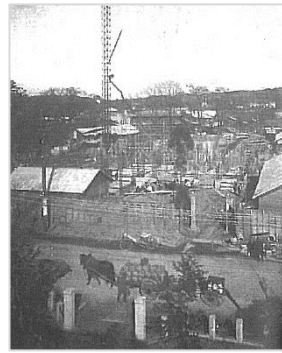
国登録有形文化財(建造物)

平成18年10月18日登録

指定管理者 希望橋グループ

## ●いつ頃建てられたの？

大正 13 年(1924 年)6 月、公会堂を建設することが県議会で決まりました。翌年(大正 14 年)に設計図ができ、その年の 9 月に工事が始まりました。そして約 2 年の工事期間を経て昭和 2 年(1927 年)6 月に完成しました。



建設中の岩手県公会堂  
(大正 15 年)

中央通りには大八車を引く馬が見えます。

☆公会堂ができた 90 年前は……

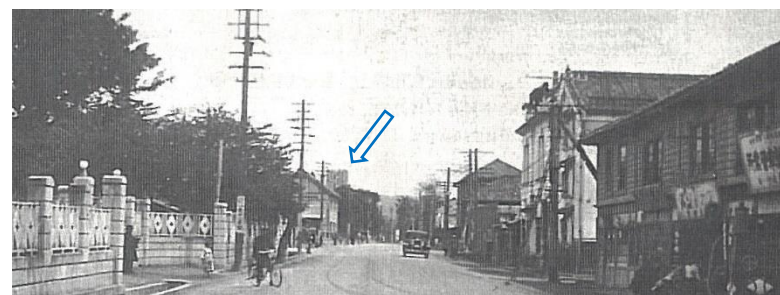
- ・豊田佐吉(トヨタグループ創始者)が自動織機の特許を取得しました。(1925 年)
- ・日本初のラジオ放送が始まりました。(1925 年)
- ・納税額に関係なく成人男性に選挙権が与えられました。(1925 年)
- ・日本の人口は約 5,900 万人、岩手県は 90 万人でした。(1926 年)

## ●どうして建てられたの？

昭和天皇は、当時は皇太子でしたが、大正 13 年 1 月にご結婚なされました。結婚が決まった時、県会議員がこの結婚を「永遠に記念するために公会堂を建設したい」と知事に提案しました。

この提案は、県議会で「県会議事堂」を併設することを条件に可決されましたが、この時牛塚知事が、建設に反対する議員が多くいる中で、「人生は短く、芸術は永し」と演説し、建設が決まったと伝えられています。

☆知事の芸術文化に対する思いが伝わってきますね。



昭和 10 年ごろの中央通り。公会堂の塔屋が見えています。

## ●誰が設計したの？

公会堂は建築家佐藤功一教授が設計しました。佐藤教授は、明治 36 年(1903 年)に東京帝国大学(東京大学)の建築学科を卒業後、三重県職員、宮内庁職員を経て、明治 42 年(1909 年)に早稲田大学の建築学科創設に参加し、明治 44 年(1911 年)33 歳の若さで建築学科の主任教授に就任しました。



佐藤功一教授

生涯に約 230 件の建物を設計し、現在でも残っている有名な建物も多く手がけました。

☆佐藤教授は早稲田大学建築科を創設に参加した明治 42 年 1 月から翌年 10 月まで、欧米各国を訪問しました。きっと、その時に当時の最新の工法であったコンクリート造りの建物をたくさん見たと思います。

## ●建てられた頃、周りはどんな様子だったの？



江戸時代、お城に近い内丸には盛岡藩の家臣のお屋敷がありました。明治になって広いお屋敷は新たな行政の施設として使われ、立て替えられていきました。最初お城

の中にあった県庁は現在の場所に移り、警察署、裁判所も現在の場所に建ちました。現在公会堂が建っている場所には農産物の種を扱う種芸場が建てられ、



裁判所前の石割桜(大正ごろ)

後に師範学校女子部が建てられました。この学校は大正 9 年(1920 年)に火災で焼失し、大正 14 年に別の場所に移転しましたが、大正 14 年は公会堂の建設工事が始まった年です。



明治から大正の頃の建物は木造 2 階建てで屋根は瓦、洋風の建物といっても、まだまだ和風の趣がありました。

☆家臣が住んでいた広いお屋敷の土地が、明治という新しい時代の街づくりや近代化に活用されたのですね。

## ●どう使われてきたの？

西側(県庁側)は県議会が建設された昭和 40 年(1965 年)まで県会議事堂として使われてきました。東側(合庁側)は昭和 20 年(1945 年)8 月の終戦の時までレストランとして使われていました。



県議会の様子(昭和 40 年)

キッチンが地下にあって、1 階は小食堂とドリヤードが楽しめる部屋、2 階は大食堂でした。その後、レストランは地下に移転しました。

なお、公会堂は戦後に進駐軍が病院として使用していた時期もありました。

昭和 35 年(1960 年)には大ホールの音響・照明設備の改装を行い、昭和 51・52 年(1976・1977 年)には内部の改装を行い、現在の会議室と大ホールという施設になりました。



現在の大ホール

☆公会堂は長い歴史の中で使われ方が変わってきました。今は、会議室は会議だけでなく、色々な文化活動をしているサークルのみなさんにも使われており、昔に比べて文化施設としての役割がより大きくなっています。



桜山神社参道  
(撮影時期不明)

鳥居の先は、今は商店街となっています。中ノ橋から神社の前を通過して、大通りにつながる道はまだありません。



肴町付近から望む岩手山と  
公会堂(撮影時期不明)